

2024 優勝エッセイ賞

佳作 (GⅢ)
受賞作

すべてはその日のために

内藤 まゆこ



受賞のことは
権威と歴史ある優勝エッセイ賞でこの度は佳作に選出頂
き光栄です。夫も大変喜んでます。馬は沢山の喜びや、
人と人との繋いで幸せを運んで来てくれます。イグニショ
ンを通して私は様々な感情を味わい、馬を想う人々との出
会いによって人生が豊かに彩られていくように感じます。
これからもイグニションが元気に活躍できますよう祈り、
末永く寄り添っていきます。
最後にイグニションを日々管理下さる畑端省吾調教師と
厩舎スタッフの皆様に感謝申し上げます。

プロフィール

馬が大好きな午年生まれ。趣味
は牧場見学と乗馬。馬からは怒
らない人と見抜かれ、よくいた
ずらされます。特技はオーボエ
吹奏。人生の目標は北海道・日
高エリアで土地を見つけて夫と
馬と共に暮らすこと。

「別にわざわざ買わなくて、フツのスーツでいいん
じゃない？」

「そもそも馬が勝たなきゃ始まらないんだし。口取りだつ
て、クラブの抽選で当選しなきゃ参加出来ないんでし
よ？」

仕事から帰宅した夫は、今日も背中を丸めてスマホを見
続ける私を見て、呆れて言った。

「口取り」とは競馬場にて勝ち馬と馬主などの関係者が
記念撮影を行うことだ。

一口馬主を始めて半年の私は、初の出資馬がデビューを
迎えようとしていた。

馬の名前はイグニション。父は芦毛の馬体に黄色のシャ
ドーロールがトレッドマークだったスノードラゴン。私が
大好きな馬だ。

私は「レースでイグニションが勝って、自分が口取りに
参加する」という「捕らぬ狸」的な想定をして、口取り時
に着る服を探していた。なぜなら出走馬の確定は当該週の
木曜日の夕方、クラブの口取り申込みの抽選結果は金曜
日の午後に発表される。当選してから服を探し始めたので
はレースに間に合わないのだ。また口取りに参加する際は、
クラブが定めたドレスコードに従う必要がある。基本的に
男性はスーツにネクタイ、女性はスーツかそれに準じた服
装との事だが、折角なら規定の範囲内で、少しはお洒落を
楽しみたい。

私は夫の言葉をスルーし、悩んだ末に値は張ったがカシ

ミヤ入りのベージュのジャケットに、同色系でふわりとし
たロング丈のプリーツスカートをネットで思い切って購入
した。

2022年12月、イグニションのデビューは中山競馬場
だった。口取り抽選に当選した私は、用意した「口取り
服」を着て、夫と共に都内の自宅から中山競馬場へ向かっ
た。夫は着古したダウンに膝が擦り切れたジーンズ姿で、
一緒にいると微妙な違和感が漂った。

普段の私は競馬場に着くと、キュートな馬グッズでいっ
ぱいのターフィーショップに吸い込まれてしまうのだが、
今日は違った。足早にパドックへ行って最前列を確保した。
イグニションの登場を待つ間、この中山を何度も走った
父・スノードラゴンを想った。

輝かしい成績を収めて流星のように去っていく馬たちと
は対照的に、61戦8勝、11歳まで現役を続けたスノードラ
ゴン。歳を重ねても、ひたむきに走り続ける姿から、私は
沢山の元気をもらった。そして彼の仔が生まれた時には必
ず応援したいという思いから一口馬主となり、今は息子のイ
グニションと口取りすることが私の夢の一つとなっていた。
暫くすると7番のゼッケンをつけたイグニションがそろ
りそろりと大人しい様子でパドックへ入って来た。冬晴れ
の青空の下、栗毛の馬体は明るく際立ち、つぶらな瞳の雰
囲気はお父さんにそっくりだ。とにかく可愛い！

夫は筋金入りの競馬好き故に、イグニションを見ただけ

で舞い上がっている私とは異なり、勝ち馬はどれか、馬券重
視で掲示板のオッズを睨みつつ全頭をクールに見定めていた。
馬場入場は馬番順にお行儀良く常歩で進む。

生まれてから、母親と別れ、人間を信頼して鞍を背負い、
調教を積み、ゲート試験を受けて…グリーンチャンネル・
鈴木淑子さんの『淑子の見た北の大地』の番組で何度も見
た映像を思い出した。多くの試練を乗り越えてこの舞台に
立つ15頭の馬たちが、返し馬で一斉に走り出した瞬間、思
わず涙が出た。

ゲート入りも無事終わり「みんなケガなく走れますよう
に。イグニション頑張って！」と目を閉じて心の中で強く
祈った。

「スタートしました！」

イグニションの位置取りを必死に目で追うも、馬群に揉
まれズルズルと下がっていく…。

イグニションは7着だった。

あっけなくレースは終わり、口取りも消えた…。私は茫
然とした。そして身に纏っている「おめかし服」が自分を
一層虚しくさせた。

夫は「初戦だからね、まあ良く頑張ったよ」「悪くない
よ」「次に期待だね」と、ちょこちょこフォローをくれた。
次のレースを見る気力も無く、帰り際にハイセイコー号の
銅像前で写真を撮り、中山競馬場を後にした。

2023年3月、中山競馬場。再び夫と共に口取り服を

着て応援に行くも4着。

2023年4月、福島競馬場。母にお供を頼み春夏用に新調した口取り服で行くも5着。

レースで1勝することの難しさを痛感していると、イグニションが中一週・福島で再び出走するという。夫の「程々にしなさい」との忠告をよそに、口取り抽選に申込むと当選したため、ひとり東北新幹線に乗った。

レースはスタートから押して2番手に上がり4角先頭の積極的な競馬。残り100メートル地点にいた私の目の前を先頭で通過。

「イグニションー」思わず声が出た。口取りの姿が脳裏に浮かぶ。しかし内外から差され5着。掴みかけた夢は一瞬で吹っ飛んだ。

未勝利戦を勝ち上がったイグニションは2023年10月、地方競馬の園田へ移籍となった。「元気でいるだろうか。新しい環境には馴染めただろうか」と、離れて暮らす子を心配する田舎のおふくろの様な気持ちに浸っていたが、そんな心配は無用だった。

イグニションは圧倒的な強さで勝利した。後続を大きく突き放し独走する姿は、今までとは全く違う馬のようだった。ネット中継で見ている私は感極まり、何度拭いても涙が溢れた。動画を繰り返し見ている喜びに浸った。次走も一番人気で一着。イグニションはあつという間に中央に戻ってきた。

復帰初戦は2024年2月、京都競馬場で11着。翌月の小倉競馬場で遂にJRA初勝利を飾った。祝福の気持ちの一方で、口取り出来た人たちを羨ましく思った。流石に小倉は遠い…と、小倉に行かなかった後悔は強く、次は何処であろうと絶対に行く！と心に誓った。

イグニションの次走を待ちわびていた4月下旬、自宅で夕食の支度をしていると、私は突然激しい腹部の痛みに襲

われた。「急性虫垂炎」だった。都内の病院に緊急入院し、ひとまず抗生剤の点滴治療を行い、数カ月後に腹腔鏡で虫垂の切除手術をする方針となった。

5月、イグニションが新潟・大日岳特別に出走する。一日退院できた私は、体調を心配する母と兄に付き添ってもらい新潟競馬場までやって来た。イグニションに会うのは福島以来、約一年ぶりだ。入院中は絶食だったためにげっそりと痩せ細り、口取り服はブカブカだったが、競馬場にいるだけで心が弾んだ。

パドックに現れたイグニションは、すっかり大人になったように逞しくなっていた。

夏のような強い日射しと人の熱気の中を、ミストに守られながら静かに周回する馬たち。

すると私の背後に立つ男性が会話を始めた。

「これは、どれが来てもおかしくないな。でも、強いて言えばイグニションかな」

私は笑顔になってしまった。まるで身内が褒められているような誇らしい気分になった。

「イ、イグニション？強いんすか？」

「この馬のお父さんがここでGI勝ってる。俺、その時お世話になったからさ。しかもお父さんと同じピンク帽だし縁起がいい」

父・スノードラゴンは2014年、この新潟競馬場でスプリンターズSを制した。あの強さを子も受け継いで欲しいと願った。

レースは父と同じように大外から懸命に追い上げたが残念ながら6着。しかし、父譲りのひたむきに走る姿に大きな成長を見た。

5月末、私は再び虫垂炎の痛みで寝込んだ。次走は函館で滞在競馬になると予想し、新しく黄色のストッキングと馬のブローチまで買って楽しみにしていたのだが、「函館で腹が痛くなったらどうするんだ」と家族に猛反対され、

6月の函館遠征を泣く泣く断念した。

そして私の虫垂炎の腹腔鏡手術が7月6日に決まった。イグニションの出走がこの週だけには当たらないことをひたすら祈ったが、神様は非情にも同じ日に出走を確定した。手術時間も発走時刻に被っていた。私はこの厄介な虫垂炎を心底恨み、自分の不運を嘆いた。

7月6日、函館・潮騒特別・14時50分発走

「内藤さん、終わりましたよ」

麻酔から覚め、お腹を見ると真っ白なテープが3つ貼ってあった。手術は終わった。今、何時なのだろう。イグニションはどうだったのだろうか。でもお腹が痛い…。点滴を受けながら、痛みに耐えるだけで精一杯だった。

時刻は16時を過ぎ、外は雷雨になっていた。日帰り手術のため、夫に支えられてタクシーで帰宅。私のお腹は手術時に注入したガスの影響で小玉スイカのように膨れ上がっている。どう動いてもお腹が痛む中、ゆっくりソファに座り、スマホを夫に持ってきてもらった。

夫はイグニションの結果を当然知っているはずだが、何故だか無表情で、何も言っていない。もしかして勝ったのだろうか。勝っては欲しいが口取りに参加出来なかったことが、また悔しくなってしまう…。窓の外は雨雲で灰色だ。複雑な気持ちでJRAアプリを開き、潮騒特別のレース映像ボタンを押した。

イグニションは4着だった。

夫は、にこにこ笑って私に言った。

「イグニションは強かったよ。きつと勝てる。まゆちゃんと一緒に口取りするために、今日は勝つのを待ってくれてたんじゃないかな？」

笑おうとしたら、お腹がズキッと痛んだ。早くこの小玉スイカをへこませて、イグニションの応援に行こう。新しい口取り服を着て。

すべては夢の口取りの日のために。
イグニションと私の挑戦は続く。